

平成 29 年 4 月 3 日

## 女子体操競技情報 25 号

(公財) 日本体操協会  
東京オリンピック強化委員会  
女子体操競技強化本部  
審判委員会女子体操競技審判本部

2016 年 12 月に開催された国際体操連盟主催第 14 期大陸間国際審判講習会にて採点規則 2017 年版のルールが正式に通達され、その内容をもとに国内でも 1 種伝達研修会にて新しいルールを伝達させていただきました。その後、アジア地区の国際審判員認定講習会(東京 A コース・2017 年 3 月)が開催され、そこで先般伝達されたルールの一部が修正されました。また、2017 年 3 月 14 日付ニュースレター#41 が 3 月 29 日に発表され、新たなルールが追加されましたので、併せてここに通達いたします。

なお、日本国内では 2017 年 6 月 1 日より適用いたします。関係各位への周知をお願いいたします。

## 【2017年3月 FIG 採点規則の変更、修正、追加】

### 1) 第9章 技術の指針

#### 9.3 抜粋されたダンス系の技の要求

輪とび(リープ)/脚交差した前後開脚からの輪とび(ひねりを伴う/伴わない)

#### 【追加】 D 審判団 :

- 後ろの足が肩より低い
  - 前後開脚とびまたは脚交差した前後開脚とび

#### E 審判団 :

- 前脚が水平より低い(おおよそ 45 度) -0.30 (中欠点)

注 : 後ろ脚の曲がり (135 度) の承認要求はない。

### 2) 平成28年12月26日付「採点規則2017年版の情報について」(ニューズレター#40) の内容の修正

ゆか

Dスコアの計算例 :

#3

A E A A D X C D X E X X E

計算 :

アクロバット系 : 1D 2A = 0.60

ダンス系 : 3E 1D = 1.90

CR: = 1.00

CV: = 0.00

合計 : **3.50**

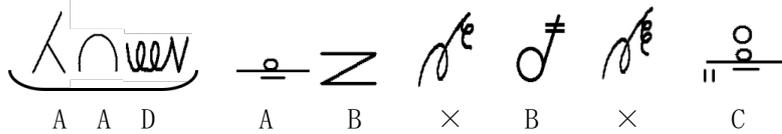
#### 【ゆかの難度点の数え方の解釈の変更】

解説 : 終末技がない場合、アクロバット系の技は演技の中で実施された技 (承認される技) の数より 1つ少ない数しか数えることができない。難度点の数え方として、終末技がなくても数えられるアクロバット系の技が4つあれば3つは必ず数える。

上記の例 (#3) は終末技なし、演技の中で数えられるアクロバット系の技は4つであるため、高い難度のダンス系の技があってもアクロバット系の技は3つ数える。

ゆか 難度点の数え方の例：

例1：アクロバット系 3つ ダンス系 4つ 終末技なし

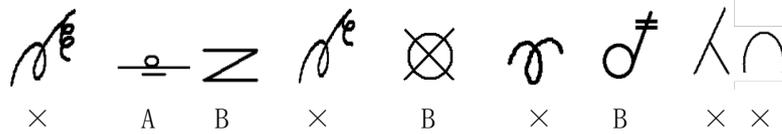


A A D      A B      ×      B      ×      C

計算：  
 アクロバット系：1D 1A      =0.50  
 ダンス系：1C 2B 1A      =0.80

注：終末技なし、アクロバット系の技が3つしか承認されないため難度点として数えられるアクロバット系の技は2つ

例2：アクロラインがない 終末技なし



×      A B      ×      B      ×      B      × ×

計算：  
 アクロバット系：              =0.00  
 ダンス系：3B 1A              =0.70

注1：アクロラインがない場合、アクロバット系の技は難度点として数えられない。

注2：短い演技の減点はない。(難度点として数えることができないが、技術的な要求が満たされた異なる技が7つ以上ある場合は短い演技に該当しない)

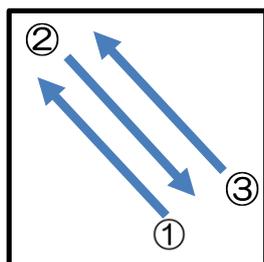
3) 13.6 種目特有な実施減点

「アクロラインの後に1回より多く立て続けにアクロラインを実施する 各-0.10」

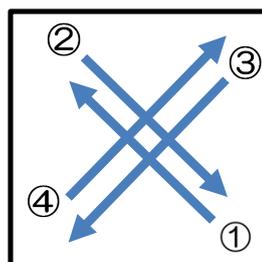
【変更】

1つの対角線で2回続けてアクロラインを実施した後（第1アクロラインと第2アクロラインを続ける）、異なる対角線で同様に2回続けてアクロラインを実施した（第3アクロラインと第4アクロラインを続ける）場合も減点となる。

減点例1：



減点例2：



## 【採点規則2017年版の訂正】

ゆか 難度表 FX – Group 2 – 1  
(差し替え)

### 2.402

前へ上げた浮脚の踵をターンの始めから終わりまで水平に保つ片足立ち2回ターン、手の保持があってもなくても(支持脚と浮脚は曲ても伸ばしてもよい)

